

ひ み か

古田史学の会総会にて 俣彌呼の鏡

2022年6月19日

『魏志倭人伝』
景初2年(238)12月、魏の明帝は「親魏倭王卑弥呼よ、帯方太守の劉夏の使者が、汝の使者難升米と都市牛利、そして汝が献上した男の生口4人、女の生口6人と、班布2匹2丈を届けた。汝の国ははるかに遠く、使者を派遣し貢献したことは汝の忠孝のあらわれである。私は今汝を以て親魏倭王とし、**金印紫綬**を与える。これを帯方太守に付託・仮授する。汝の国人を安撫し(魏に)孝順するよう勤めよ。」

「難升米と牛利の遠路労苦をねぎらい、引見し難升米を率善中郎將とし、牛利を率善校尉とし、**銀印青綬**を与える。次の下賜品を持たせて帰途させる。**絳地交龍錦**(こうちこうりゅうけん：赤色地に交龍を描いた錦)5匹、**絳地縹粟罽**(こうちすうぞくけい：赤色地の縮緬毛せん)10張、**倩絳**(せんこう：茜・赤)50匹(480m)、**紺青**50匹を汝の貢献への返しとする。

また、特に汝に**紺地句文錦**3匹、**細班華罽**5張、**白絹**50匹、**金**8両、**5尺刀**2口、**銅鏡**100枚、**真珠・鉛丹**(光明丹)各50斤を下賜し、これらを皆、封裝して難升米と牛利に付託する。彼らが帰着したら記録し受取り、これらの総てを汝の国人に示して、我国が汝をいとおしんでいることを周知せよ。そのために汝の好物を鄭重に授与するのである。」

正始元年(240)、(帯方郡)太守弓遵(きゅうじゆん)は建中校尉の梯儻(ていじゆん)等を派遣し、梯儻等は詔書、印綬(=親魏倭王という地位の認証状と印綬)を捧げ持って倭国へ行き、倭王に授けた。

並びに、詔をもたらし、金、帛、錦、罽、刀、鏡、采物を下賜した。倭王は使を通して感謝の意を上表した。



天子の下賜品に相応しいモノと量

◆布帛廣二尺二寸為幅長四丈為匹『漢書』より：1匹は幅53cm長さ9.6mの反物か
◆1銖0.57g、1兩24銖13.8g、1斤16兩220g
『維基百科・中国度量衡』より：8兩=110g、50斤11kg

1

1、俣彌呼がもらった鏡は三角縁神獸鏡か？

俣彌呼が下賜された「鏡百枚」は、邪馬台国の所在地論争の物証の一つとして注目されてきた。その中で、この鏡は三角縁神獸鏡であるとする説が、主に邪馬台国近畿説の研究者によって唱えられてきた。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

【俣彌呼の鏡は三角縁神獸鏡だとする根拠】

- ①卑弥呼が魏に使節を派遣した『景初3年』を記した銘文：福山敏男 1987
- ②『銅は徐州から出、師は洛陽から出る』という銘文：富岡謙蔵 1916
- ③魏の鏡と共通する特徴がある：田中琢 1985
- ④成分分析によって鉛の成分が魏鏡に似る：馬淵久夫 1996

【俣彌呼の鏡は三角縁神獸鏡ではないとする根拠】

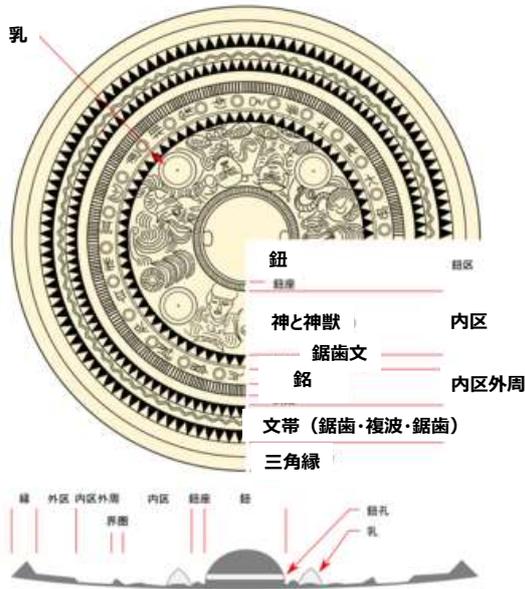
- ①中国から一枚も発見されていない：王仲殊 1981
- ②『景初四年』という実在しない年号を記した銘文：王仲殊 1987
- ③100枚を大きく超える数：古田武彦 2016
- ④成分分析によって銅の産地は神尾銅山と推定：新井宏 2007
- ⑤黒塚古墳の発掘状況からみて三角縁神獸鏡は粗雑に扱われている：森浩一 1978
- ⑥鏡の多くは4世紀の古墳から出土：森浩一 2015
- ⑦銘文が稚拙：森博達 2003
- ⑧呉の鏡と共通する特徴がある：王仲殊 1981



2

1、倭彌呼がもらった鏡は三角縁神獸鏡か？

三角縁神獸鏡とは？



当時の実用品としての鏡は、外径が10cm前後の小さな銅鏡であった。対して、

三角縁神獸鏡の定義 — 樋口隆康氏による。

- ① 径20cmを超える大型品が多い。
- ② 縁の断面が三角形。
- ③ 外区は鋸歯文帯・複線波文帯・鋸歯文帯。
- ④ 内区外周に銘・神獸・唐草文・波文・鋸歯文半円方形帯のいずれかが配される。
- ⑤ 内区には4～6個の小乳で区分され、その間に神像・瑞獣を配置する。
- ⑥ 銘文は7字句数種と4字句1種がある

中には倣製(日本列島での模作)鏡もある。

以下は、富岡謙蔵氏の判断基準

- ① 文様がぼんやりし、簡略化、無意味なものもある
- ② 文様が本来の意味を失っている
- ③ 銘文が文字を欠いたり記号的に扱われている
- ④ 周縁に鈴を取り付けるもの

3

1、倭彌呼がもらった鏡は三角縁神獸鏡か？

三角縁神獸鏡の出土分布：『日本列島出土鏡集成』下垣仁志2016年より

同時代もしくは重なる時代のモノの出土分布と異なる。

出土地不明50、合計578面



- ① 国内で500面を越える出土があるのに、中国での発見が無い。
- ② 原材料に朝鮮半島もしくは日本の鉛を含んでおり、倭国製である。

残念ながら未だに、頑強に三角縁神獸鏡が倭彌呼のために特鑄された鏡だとする方がおられる。

- ③ 倭彌呼のために特鑄されたものとするれば、下賜鏡である「しるし」がありそうだが三角縁神獸鏡にはそれが見られない。

倭彌呼の鏡で無いとすれば、誰がどのような意図で作り流通させたのであろうか。

左図に578面の出土分布を示すが、同時代もしくは重なる時代の「弥生小型仿製鏡の分布」、「庄内式土器並行期土器の分布」とは明らかに異なる。

奈良・京都・大阪・兵庫を中心とし、もう一つの多土地は福岡であり、次に岡山・岐阜・愛知が続く。

4

倭彌呼と同時代もしくは重なる時代の 日本列島周辺の モノの出土分布

弥生小型仿製鏡 (Φ10以下) の出土分布：
『日本列島出土鏡集成』下垣仁志2016年より



庄内式土器・並行期土器の出土分布：
『庄内式土器研究』19～23、庄内式土器研究会編より



5

2、倭彌呼がもらった鏡は、尚方作鏡ではないか？



『漢書』によると、少府の下部組織に尚方があり。秦の時代より少府は山海池澤税で運営される。現在で言えば財務省管轄下の造幣局のようなものであろうか。

「尚方は主に禁器物を作る」顔師古注とあり、税金で天子の御物を製作する工房である。この工房は、『後漢書』にも見える。

◆令1人、員吏13人、吏従官6人。御刀剣と諸の好器物の工作を掌る。



尚方剣：
尚方宝剣は漢に始まる。少府尚方で鑄造され、皇室が使用する刀剣。月食の時に尚方で作られたものを天子が用いる。

倭彌呼の遣使が洛陽を訪れた際、尚方が存在したと見られる。明帝が下賜した鏡は、尚方で製作された可能性が高い。

「尚方作」銘はまさに皇帝からの下賜品であることを示している。「尚方作」銘は皇帝からの下賜である「しるし」になるのである。「皇室御用達」のようなものだ。

6

2、倭彌呼がもらった鏡は「尚方作」鏡ではないか？

「尚方作」銘のある鏡が、日本国内で **70面** 出土している。（+中国32面、半島4面）
出土分布は右図。福岡県で27面出土。
その中で、平原墳墓で21面の出土。

私が調べた範囲では、これ以外に中国および朝鮮半島で 36面 の出土がある。



平原遺跡

日本最大最多 破砕された銅鏡三十九面

平原遺跡の方形周溝墳墓は東西18m、南北14m。大きく崩れていたが、墓域に認められた痕は割竹形とみられる。写真は北側から。

「尚方作」鏡の国内での出土分布：
『日本列島出土鏡集成』下垣仁志2016年より



7

2、倭彌呼がもらった鏡は「尚方作」鏡ではないか？

普通に考えて、「尚方作」鏡 = 倭彌呼の鏡となる。ところが、多くの学者から否定されてきた。

「尚方作」鏡は倭彌呼の鏡でないと言われた根拠

- ① 漢末に尚方を中・左・右尚方に3分され、魏・晋はこれに従った。
甘露4年（259）鏡と甘露5年（260）獸首鏡は「右尚方師作竟」とある。
景元4年（263）規矩鏡には「景元四年八月七日右尚方工作立」とある。
魏晋の3尚方の中で右尚方が鑄鏡を掌る官署であったことが知られるのである。
- ② 「尚方作」鏡が多く出土した平原遺跡は弥生時代後期中頃（100年前後）のものだ。
- ③ 「尚方作」銘文には、中国製とは思えない字句の誤用が見られる。
- ④ 中国では後漢・三国・六朝を通じて、踏み返しの同型鏡はあるが、同一の鑄型で鏡が何度も鑄造された事実は未だ見えない。奥野正男1982年
- ⑤ 平原鏡の鉛同位体比の中には「楽浪の鉛」が添加されたものがある。その他の鏡で仿製鏡を示す明確な兆候はないが、従来から仿製鏡とされてきたものに近い。新井宏2012年

8

俾彌呼の時代（魏晉朝）は、「尚方作」ではなくて「右尚方作」だ。

- ① 漢末に尚方を中・左・右尚方に3分され、魏・晋はこれに従った。梅原未治1925年
 甘露4年（259）鏡と甘露5年（260）獸首鏡は「**右尚方師作竟**」とある。
 景元4年（263）規矩鏡には「**景元四年八月七日右尚方工作立**」とある。
 魏晋の3尚方の中で**右尚方**が鑄鏡を掌る官署であったことが知られるのである。

俾彌呼の時代（魏晉朝）でも、「尚方」呼称は使われている。
 「右尚方」で作られた鏡でも、「尚方作」と銘される可能性はある。

『三国志』魏書少帝紀に、「（254年）大赦（正元と）改元する。乘輿・服御・後宮用度を減らして、尚方御府百工の技巧・靡麗・無益の物を罷めさせた。」とあり、魏朝でも尚方の呼称を用いた。小山満2018年

そしてとくに中国国内では、「尚方作」銘が偽作されたものとは考えにくい。

前漢・後漢・魏・晋にかけて天子の御物を作る工房としての「尚方」があった。
 「尚方作」と中国国内で偽作すれば、それは偽金を作るに等しい行為ではないだろうか。
 時代は降るが、唐律私鑄錢条「諸私鑄錢者 流三千里」とある。
 『続日本紀』和銅4年「凡私鑄錢者斬、從者沒官、家口皆流、五保知而不告者與同罪」（私に錢を鑄した者は斬首、從犯は沒官、家人は流刑、五保で知っていて黙っていたものも同罪とする。）

9

②「尚方作」鏡が多く出土した平原遺跡は弥生時代後期中頃（100年前後）のものだ。

『平原遺跡発掘調査中間報告』伊都国通信1998年

- ◆（平原）1号墓が造られた年代については確実にそれを示す土器が発見されていないため、銅鏡をはじめとする副葬品などの検討からその年代が推定されていた。
- そして、弥生時代後期中頃（100年前後）とする説と、後期後半から終末（200～250年前後）とする説があった。今回の調査結果（年代を示す土器片※が発見された）から考えると、後者の可能性が高くなった。

※ 2号墓の南側から発掘された庄内（式土器）併行期と見られる土器破片。



平原王墓は、200年～250年頃の遺跡の可能性が高くなった。

10

③「尚方作」銘文には、中国製とは思えない字句の誤用が見られる。

【尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗 浮游天下放四海 徘徊名山采芝草 寿如金石之固保】

これは尚方で製作した精巧で大きな鏡である
 上には不老の仙人が居て 彼はのどが渇けば玉泉を飲み腹が減れば棗を食べる
 天下を浮遊し四海に遊ぶ 名山を徘徊して芝草を摘む
 金石の如く長く国は続くだろう

- ①「尚方作竟」の所を「尚方佳竟」とする鏡がある。No.27、49、55、57、65
 作を佳と間違っただろう。しかし、中国で発見されたNo.73、74、朝鮮半島で発見されたNo.93、96にも見られる。
- ②「玉泉」を「王泉」とする鏡がある。No.37、41、46、49、50、51、53、55、56
 明らかな誤字である。しかし、楽浪石巖里（そくあむり）墳出土No.96や、中国のNo.74にも見られる。
- ③「仙人」を「山人」とする鏡がある。No.13、14、27、64
 しかし中国紹興市出土のNo.89や楽浪出土のNo.96に見られる。
 他に、「仙人」を「仙仙」とする鏡がある。No.39、40 しかし、これも倭国製の証拠とは言えないだろう。
- ④「無傷（傷無し）No.2、35」を「母傷（傷なかれ）No.10、11、15、18、23、31」とする鏡がある。
 しかし、楽浪石巖里（そくあむり）墳出土の鏡No.95にもある。
 加えて「四海」を「三海」とする鏡がある。No.6、24、25 これも石巖里墳出土の鏡No.96にある。

銘文の誤字は中国および朝鮮半島で発見された尚方作鏡にも見られる。

11

尚方作鏡の銘文一覧 1

出土遺跡	銘文	径
1群馬高崎市綿貫観音山 浮彫獸帯	尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗 □□孫□□□□ 寿如金石□□保兮／亘子孫（右回り）	23
2前橋市天神山古墳 二禽三獸	尚方作竟大無傷 巧工刻之成文章 和以銀錫青目明 長保二見兮	18.5
3前橋市天神山古墳 流雲縁方格規矩	尚方作竟真大工 上□□不老 渴飲泉玉泉飢食棗	16.4
4★本庄市秋山古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	20
5★狛江市亀塚古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	20.8
6羽咋市宿東山1号墳 方格規矩	尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗 放三海兮	17.9
7加賀分枝カン山古墳 方格規矩	尚方作竟真大好 上□□人不知老 渴飲玉泉飢食棗兮	16.4
8★福井脇袋西塚古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	20
9長野川柳將軍塚古墳 方格規矩	尚方作竟左倉龍石 子孫翁□亘父母家中富 王	20.8
10岐阜城塚古墳 細線式獸帯	尚方作竟大母傷 巧工刻之成文章 左龍右馬辟非羊 朱鳥玄武順陰陽 子孫備具居中央 長保二親樂富昌	17.9
11三重高宮付近 流雲縁方格規矩	尚方作竟大母傷 巧工刻之成文章 左龍右馬辟非羊 朱□□武主四影 子孫備具居中央 長保二親樂富□	13
12野洲市大岩山古墳 獸文縁半肉彫	□□□□□□□ □工刻之成文章 白馬辟邪居中央 寿如金石佳自好 上有山人不知老兮	22.4
13野洲市三上山下 浮彫獸帯	尚方作竟真大巧 上有山人不知老 渴飲玉泉飢食棗 □□孫□□□□ 寿如金石□□保兮／亘子孫	23
14野洲市三上山下 浮彫獸帯	尚方作竟真大巧 上有山人不知老 渴飲玉泉飢食棗 □□孫□□□□ 寿如金石□□保兮／亘子孫	23
15京都一本松塚古墳 盤龍座獸帯	尚方□竟大母傷 巧工刻之成文□ □馬師子居中央 寿如金石佳自好 上有山人不知□□	23.1
16京都八幡東車塚古墳 三角縁神獸	尚方作竟佳目好 明而日月□□有 刻治禽守悉皆右 長保二親亘孫子 富至三公利古市 告后世（左回り）	22.5
17★京都トツカ古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	19.9
18枚方市万年山古墳 獸文縁盤龍座	尚方作竟大母傷 □□刻之成文 白馬辟邪居中央 寿如金石佳自好 上有山人不知老兮	20.2
19石切岡辺古墳 浮彫一仙五獸	尚方作竟真大巧 上右仙人不知老兮	15.1
20★八尾郡川西塚古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	20.6
21★八尾高安郡川 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	19.9
22★藤井寺長持山古墳 獸文縁神人歌舞	尚方作竟自有紀 辟去羊亘古市 上有東王父西王母 令君陽遂多孫子兮	20
23たつの市吉島古墳 盤龍座	尚方作竟大母傷 巧工刻□□□章 白馬師子居中央 寿如金石佳自好 上有山人不知老兮	23
24大和天神山古墳 流雲縁方格規矩	尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗 浮游天下放三海兮 /子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥	20.3
25大和天神山古墳 流雲縁方格規矩	尚方作竟真大巧 □□仙人不知老 渴飲玉泉飢食□ □□□□□三海兮 寿如金石固□保兮 /子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥	20.8
26大和天神山古墳 複波縁方格規矩	尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲□□飢食□ □由天下兮	15.9
27奈良新沢173号墳 獸文縁浮彫	尚方佳竟真大巧 上又山人不知老 渴飲玉泉飢食棗 長保二親亘孫子 寿□東王父西王母兮 /亘子孫	20.3
28大和高田三倉堂 細線式獸帯	尚方作竟甚奇□ 倉龍在左白馬在右 朱鳥玄武辟去凶名 子孫翁翁亘父母 家中富昌貴且	16
29佐味田宝塚古墳 神人車馬	尚方作竟佳目好 明而日月世少有 刻治禽守悉皆右 長保二親亘孫子 富至三公利古市 告后世樂無已（左回り）	21.1
30新山古墳	尚方作竟佳目好 明而日月世少有 刻治禽守悉皆右 長保二親亘孫子 富至三公利古市 告后世（左回り）	22.4

12

尚方作鏡の銘文一覽 2

Table with 4 columns: 出土遺跡 (Excavation Site), 尚方作鏡 (Shangfang Mirror), 銘文 (Inscriptions), and 徑 (Diameter). It lists various mirrors such as 31 烏取北山1号墳 盤龍, 32 岡山用木1号墳 浮彫式, etc., with their respective inscriptions and diameters.

13

尚方作鏡の銘文一覽 3

Table with 4 columns: 出土遺跡 (Excavation Site), 尚方作鏡 (Shangfang Mirror), 銘文 (Inscriptions), and 徑 (Diameter). It lists various mirrors such as 61 沖ノ島 鍍銀線方格規矩, 62 京都郡番塚古墳 默文線神人歌舞, etc., with their respective inscriptions and diameters.

14

銘文の誤字は中国および朝鮮半島で発見された尚方作鏡にも見られる。

【尚方作竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗 浮游天下敖四海 徘徊名山采芝草 寿如金石之国保】

①「尚方作竟」の所を「尚方佳竟」とする鏡がある。No.27、49、55、57、65
作を佳と間違っただろう。—しかし、中国で発見されたNo.73、74、朝鮮半島で発見されたNo.93、96にも見られる。

No.27奈良新沢173号墳 「尚方佳竟真大巧 上又山人不知老～」
No.49平原墳墓21 「尚方佳竟真大□ □有□□不知老～」
No.55平原墳墓27 「尚方佳竟□□□ □□仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗～」
No.57平原墳墓29 「□□佳竟真大好 上有仙人不知□～」
No.65桜馬場遺跡甕棺墓 「尚方佳竟真大好 上有仙人不知老～」

No.73中国出土環状乳神獸鏡 「尚方作竟佳目好 明而日月世少有～」
No.74中国出土方格規矩四神鏡 「尚方佳竟真大□ 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗～」
No.93楽浪郡方格規矩四神鏡 「尚方佳竟真大巧 上有仙人不知老 渴飲玉泉飢食棗～」
No.95楽浪石巖里墳出土 「尚方御□大母傷 名師作之出洛陽～」
No.96楽浪石巖里墳出土 「尚方佳竟真大巧 上存山人不知老（2字左字） 渴飲玉泉飢食棗 浮游天下敖三海～」

②「玉泉」を「王泉」とする鏡がある。No.37、41、46、49、50、51、53、55、56 明らかな誤字である。—しかし、楽浪石巖里（そくあむり）墳出土No.96や、中国のNo.74にも見られる。

③「仙人」を「山人」とする鏡がある。No.13、14、27、64 —しかし中国紹興市出土のNo.89や楽浪出土のNo.96に見られる。

④「無傷（傷無し）」No.2、35を「母傷（傷なかれ：禁止）」No.10、11、15、18、23、31とする鏡がある。—しかし、楽浪石巖里墳出土の鏡No.95にもある。加えて「四海」を「三海」とする鏡がある。No.6、24、25 これも石巖里墳出土の鏡No.96にある。

15

2、俾彌呼がもらった鏡は「尚方作」鏡ではないか？

④中国では後漢・三国・六朝を通じて、踏み返しの同型鏡はあるが、同一の鑄型で鏡が何度も鑄造された事実は未だ見えない。奥野正男1982年

確かに、次の8面は同範鏡と見れる。

No.4 ★本庄市秋山古墳	獸文縁神人歌舞鏡	20cm
No.5 ★狛江市亀塚古墳	獸文縁神人歌舞鏡	20.8cm
No.8 ★福井脇袋西塚古墳	獸文縁神人歌舞鏡	20cm
No.17★京都トツカ古墳	獸文縁神人歌舞鏡	19.9cm
No.20★八尾郡川西塚古墳	獸文縁神人歌舞鏡	20.6cm
No.21★八尾高安郡川	獸文縁神人歌舞鏡	20cm
No.22★藤井寺長持山古墳	獸文縁神人歌舞鏡	19.9cm
No.33★岡山千駄古墳	獸文縁神人歌舞鏡	20cm

次の2面、3面、3面は同範鏡と見れる。

No.39◆平原墳墓3	流雲縁方格規矩鏡	21cm
No.40◆平原墳墓4	流雲縁方格規矩鏡	21cm
No.43◆平原墳墓7	流雲縁方格規矩鏡	16.1cm
No.44◆平原墳墓8	流雲縁方格規矩鏡	16.1cm
No.45◆平原墳墓9	流雲縁方格規矩鏡	16.1cm
No.52★平原墳墓24	複波鋸齒縁方格規矩鏡	18.8cm
No.53★平原墳墓25	複波鋸齒縁方格規矩鏡	18.8cm
No.54★平原墳墓26	複波鋸齒縁方格規矩鏡	18.8cm

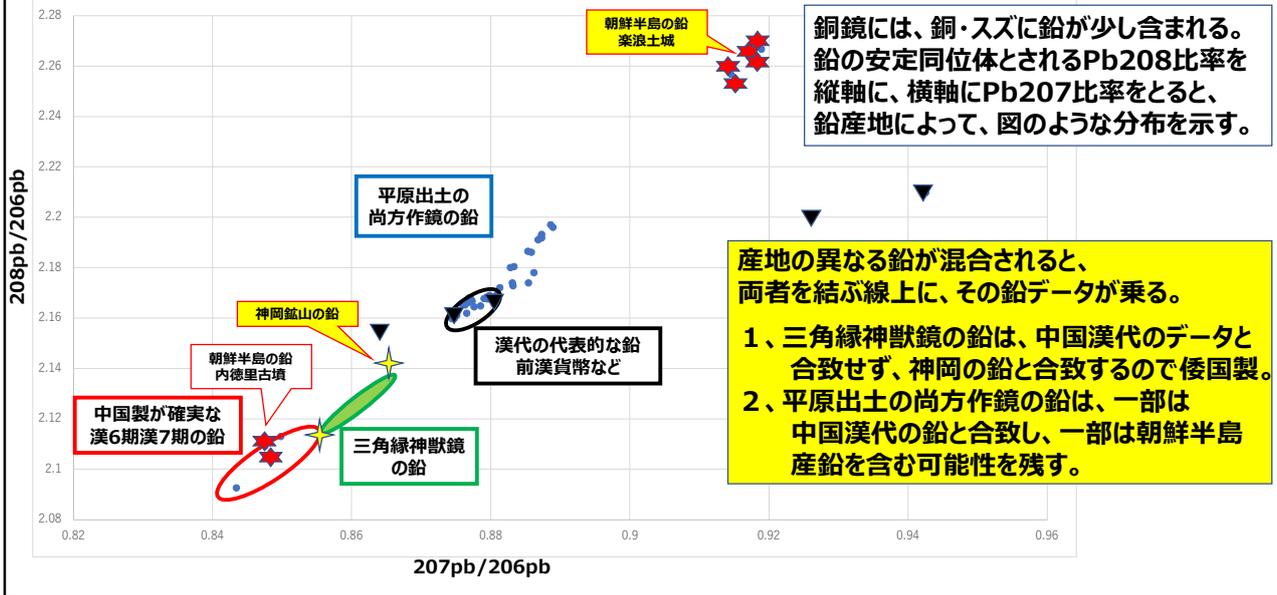
日本国内で出土する鏡に同範鏡が多く、「尚方作」鏡にも同様に同範鏡があることは事実であろう。しかし、それが倭国製である証拠となるのだろうか？尚方は皇室が使うものを作るので一品一様が普通だろう。しかし、明帝は俾彌呼に100面も鏡を下賜している。

（1）100面も作るのだから、同範鏡もあった可能性は十分ある。

（2）同範鏡は倭国製としても、同範鏡で無い鏡に下賜品が含まれている可能性は十分ある。

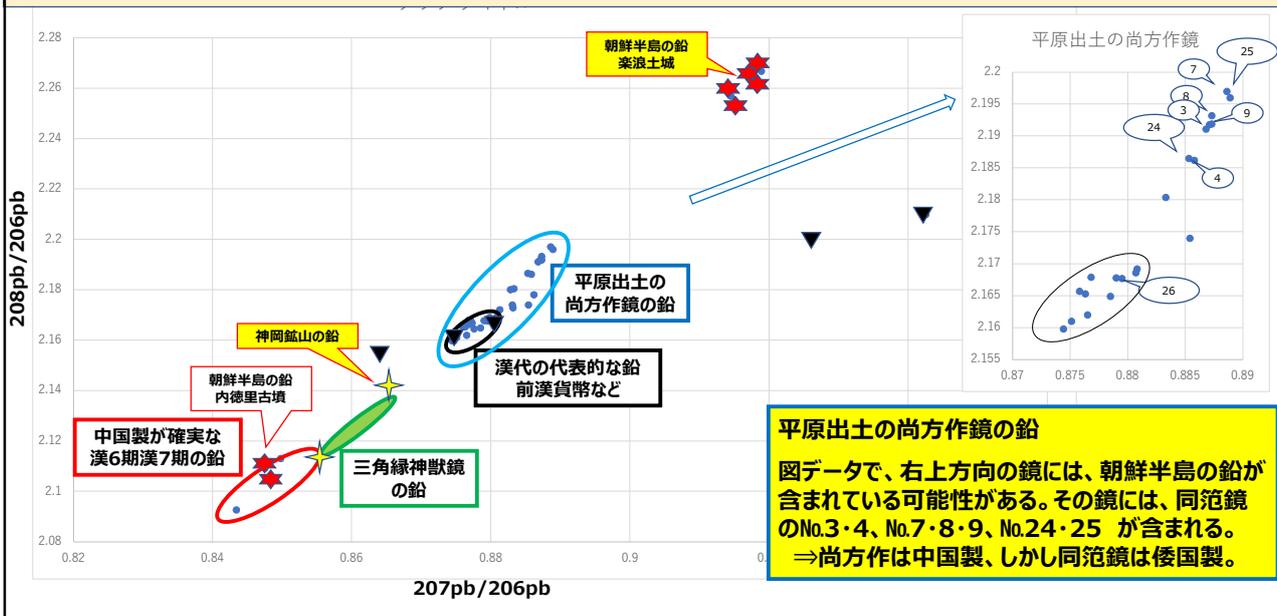
16

⑤ 平原鏡の鉛同位体比の中には「楽浪の鉛」が添加されたものがある。それ以外の鏡で倭国製を示す明確な兆候はないが、従来から倭国製鏡とされてきたものに近い。 新井宏2012年



17

⑤ 平原鏡の鉛同位体比の中には「楽浪の鉛」が添加されたものがある。その他の鏡で仿製鏡を示す明確な兆候はないが、従来から仿製鏡とされてきたものに近い。 新井宏2012年



18

2、倭彌呼がもらった鏡は、国内で出土した尚方作鏡を含むと考えられる。

普通に考えると、尚方作鏡 = 倭彌呼の鏡となる。そして多くの学者の否定論は否定される。

- ① 魏・晋朝の時代、尚方は中・左・右尚方に3分された。
しかし、倭彌呼の時代でも、尚方呼称は使われており、
右尚方で尚方作鏡と銘される可能性はある。
- ② 尚方作鏡が多く出土した平原遺跡は西暦100年前後。
2号墓出土庄内併行期土器破片から、平原王墓は
200年～250年頃の遺跡の可能性が高い。
- ③ 尚方作銘文、中国製とは思えない字句の誤用が見られる。
中国・半島出土の尚方作鏡銘文にも同様の誤字誤用がある。
- ④ 中国出土の同范鏡は未だ見えない。奥野正男1982年
100枚の特鑄だから、同范鏡があってもおかしくない。
また、同范鏡は倭国複製の可能性もある。
- ⑤ 平原鏡には楽浪の鉛が添加されたものがある。そう断定できない
ものでも、従来から仿製鏡とされてきたものに近い。新井宏2012年
平原出土の尚方作鏡の鉛は、一部は中国漢代の鉛と合致し、
一部は朝鮮半島産鉛を含む可能性を残す。



倭彌呼の墓は直径25mほどの円形塚。
平原1号墓は方形周溝墓である。
明らかに倭彌呼の墓では無い。
壹与又は一大率の墓だろうか？
現状推測する材料を持たない。
しかし、この21面の尚方作鏡の中に、
倭彌呼に下賜された鏡が含まれている
可能性が高い。

19

3、破鏡についての一考察

倭国において鏡を割る祭祀があったのではないかという説があるが、他の可能性を示す。

埋納状況から儀式などではなく、「応力腐食割れ」が思い浮かぶ。

金属、主にステンレス鋼・黄銅 = 銅亜鉛合金の「応力腐食割れ」が知られるが、
青銅 = 銅スズ合金などその他の銅合金でも報告がある。

◆佐賀県木村籠遺跡で発見された多紐細文鏡は、鏡面をいちじるしく腐食していたが、きれいに一枚の形で発見されたが鏡面は、この時いつかに割れており、腐食によって割れたものと考えられる。田中稿二氏による

応力腐食割れの原因は解明されていないが、
水素による「遅れ破壊」と私は考える。
酸化腐食反応で生じたH⁺が金属内に浸透し、
後にH₂となり破壊に至る。

鑄造時、周縁部が先に固まり、中央部に引っ張り応力が残る。



『洛陽銅鏡上巻』岡村秀典監訳、科学出版社2016年
には右写真の紹介がある。

湿潤な日本に比べて中国はおおむね気候が乾燥していると聞いている。そうであれば金属の応力腐食割れにとって腐食割れにくい環境であろう。
その中国でも銅鏡は割れている。



秦：無紋鏡



西晋：四葉蓮弧鏡

20